

2016年3月27日

福音書からのメッセージ

あの方は、ここにはおられない。復活なさったのだ。まだガリラヤにおられたころ、お話しになったことを思い出さない。
(ルカによる福音書24章6節)

今日、この復活日に読まれる福音書には、イエス様が出て来ません。女性たちはイエス様が葬られた墓に行くのですが、そこで目にしたものは空っぽのお墓だけ。本来ならイエス様がいるはずの場所だったのに、そこにイエス様はいなかった。

わたしたちの思い描く復活は、ともすると目の前で死人がむくっと起き上がる、そのようなイメージなのかもしれません。しかし聖書が描くイエス様の復活は、「そこにいなかった」という出来事を通して語られます。

墓の中にいないということ、それはイエス様が死の中にはもういないということ、そしてイエス様は生きているということを示しています。

墓の中で途方に暮れていた婦人たちの元に、輝く衣を着た二人が現れます。彼らは言います。「なぜ、生きておられる方を死者の中に捜すのか」。イエス様は死者の中にはいません。生きているのです。

このことは、わたしたちにとって、大きな喜びです。わたしたちはイエス様に会うために、墓に行く必要がなくなったのです。イエス様は生きている。その言葉は、今も、イエス様がわたしたちの周りで働かれ、わたしたちと共に歩んでくださる、そのことを意味しているのです。



わたしたちは毎週、主日に礼拝をささげています。

何故でしょうか。イエス様に会うためではないですか。イエス様にお会いし、「大丈夫、わたしはいつもあなたと共にいる」という宣言を聞きたいからではないでしょうか。

わたし自身、本当にこの日曜日が待ち遠しくって、たまらないんですね。とってもうれしい。みなさんにお会いできるってこともあります。お昼ごはんも楽しみです。でもそれ以上に、一緒に賛美して、一緒に祈って、一緒にみ言葉を聞いて、そして一緒にイエス様を、神さまの愛を感じることができ。こんなに素晴らしいことはないのです。

わたしたちはイエス様に会います。復活し、わたしたちと共にいると約束してくださったイエス様が、たしかに一緒にいてくださいます。

喜びましょう。大いに喜びましょう。イエス様は復活なさいました。そしてわたしたち一人ひとりも、聖書の婦人たちのように、墓を出て、伝えるのです。あの方はもう墓にはおられない。あなたのために復活なさったのだと。

桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>